



次世代の会「南信州hunter's」の皆さん。各支部にはベテランが多く在籍していて、若手会員はどうしても孤立しがちになっていた。そこで、若手同士が交流できる場としての会を発足し、将来を見据えた活動に取り組み始めた



猟友会が作成した、南信州ジビエ購入・飲食店ガイド「山味三昧」。飯田下伊那地方でジビエ料理が味わえたり、購入できたりする30店舗を紹介している



【巻頭特集】飯伊連合猟友会

技術を磨き、法律に基づき 狩猟を楽しむ

一般にはまだまだ馴染みの少ない狩猟の世界。猟友会についても、農林業被害をもたらす野生鳥獣の駆除・捕獲を担う人々というイメージばかりが強く、実際にどんな活動をしているのか、あまり知られていない。長野県下最大の会員数を誇る「飯伊連合猟友会」を訪ね、狩猟や猟友会の現況について話を聞いた。

飯田国際射撃場で射撃の練習をする会員。銃口は絶対に人に向けていないなど、銃の扱いには厳格なルールが定められており、たとえ練習中であっても全員が一定の動作を守り、行動する

狩猟を楽しみながら 鳥獣被害対策で地域貢献も

狩猟を行うには、居住する都道府県の狩猟免許試験に合格する必要がある。免許は猟の方法によって「網猟免許」「わな猟免許」「第1種銃猟免許（装薬銃・空気銃）」「第2種銃猟免許（空気銃）」の4種に区分されており、さらに銃を所持する場合は、都道府県の公安委員会に申請しなくてはならない。

「昔は狩猟や射撃を楽しむために、免許を取る人がほとんどでした。11月15日から2月15日までの狩猟期間に猟を楽しむ、そんな人たちが趣味の団体として結成したのが、猟友会なんです」と飯伊連合猟友会の松島貞治会長。

副会長の倉田員志さんは「初めて大物のイノシシを仕留めたときは忘れられません。今でも自慢話として、つい語ってしまいます」と笑う。しかし近年、イノシシやシカなどの野生動物が急増し、生息域を広げている。農林業に深刻な被害を及ぼすようになって、猟友会へは行政などから有害鳥獣の駆除・捕獲の要請が多くなってきた。

「自分が猟を始めた頃、狙ったのは山鳥やキジ、野ウサギばかり。当時、イノシシは3年に1頭取れるくらいで、シカはほとんど見かけなかった」と話す狩猟歴60年の土屋正英さんの言葉に耳を疑うほど、今ではイノシシやシカが増えすぎているという。飯伊地域における、シカなどによる農林業被害額は年間3億円を超える。

「我々の技術が地域に役立つのであればと、積極的に協力しています。最近では、猟を楽しむのではなく、有害鳥獣の駆除を目的に免許を取得して、猟友会に入ってくる人も増えてきました」と松島会長は組織の性格にも少し変化が見られると話す。

さまざまな課題に取り組む 狩猟文化を守っていく

飯伊連合猟友会は、飯田市猟友会と下伊那猟友会が昭和30年代に合併したもので、37の支部から成る。会員数は708人（5月31日現在）。女性も16人所属している。

会員のうち、約390人が銃の所持許可を持つが、年を追うごとにわな猟者の割合が増してきた。新規参入者の多くが獣害対策を狩猟動機としており、イノシシやシカはわな猟による捕獲が中心となっているためだ。「有害鳥獣の駆除を目的に銃を持つ人もいて、わなに掛かった獲物の『止め刺し』さえできればいいという考え方もありますが、猟友会としては法律を守り、正しい射撃、ルールを守ったわな猟をやってもらおうと努めています。そのためにも、事故防止講習会や有害鳥獣対策講習会などを実施するほか、銃の所持者には1年間に200発以上の練習を課しています」

松島会長は、安全な狩猟と技術の向上に取り組むとともに、狩猟文化を継承していくことも猟友会の大切な役割と語る。

「狩猟という視点からすれば、野

狩猟資源を守り調整しながら、枯らすことなく、適正に共生していかなければならないとも考えます

708人が所属する飯伊連合猟友会



(左) 南信州hunter'sではメンバーの技術向上に努めようとして、銃やわな(写真)の講習会を独自で開き、積極的に学んでいる (右) 猟友会では鳥獣の保護・増殖活動も行っている。写真は日本キジの放鳥の様子で、昨年は各保護区で合計180羽を放した

生動物は資源です。鳥獣保護区を作ったり、キジの放鳥をしたりと、狩猟資源を守り調整しながら、枯らすことなく、適正に共生していかなければならないとも考えます」

課題も少なくない。「今の若い方たちには、いろいろな楽しみがある中で、なかなか狩猟の世界に入ってきてません」と倉田副会長が話すように、若者の狩猟離れは顕著で、40歳以下の会員数は72人である。その一方で、会員の大半を60歳以上が占め、狩猟者の減少、会員の高齢化が

問題になっている。

10年前から新たな狩猟者の確保に向けて、狩猟やクレール射撃について学ぶ講座を毎年開いたり、狩猟免許試験も年2回にするよう県に働きかけたりと、手を打ってきた。そんななか一昨年、若手会員たちによる次世代の会「南信州hunter's」が誕生した。同会には40歳以下の会員約30人が参加しており、射撃・わなの講習会、ジビエ料理の試作研究、射撃場周囲の環境整備と、若者らしく活発に活動を展開してきた。11月開催の「新規狩猟者確保講座」でも中心的な役割を担うなど、大いに期待されている。

「若い方に興味を持ってもらうためにも、狩猟の楽しさをもっと少しアピールする必要があります。女性会員も増やしていきたいですね」と松島会長は今後も課題対策に力を注いでいくとしている。



飯伊連合猟友会副会長 倉田員志さん
飯伊連合猟友会会長 松島貞治さん

information

飯伊連合猟友会

飯田市追手町2-678 飯田合同庁舎内(南信州地域振興局林務課内)
電話0265-23-1111(内線2434)
<http://www.16.plala.or.jp/hanirengou/>

新規狩猟者確保講座

県の地域発元気づくり支援金を活用した新規狩猟者確保イベント。11月10日(土)、飯田国際射撃場にて開催する。イベント後には、資格取得を目指す人に向けた講座を開くなど、サポートも行っていく。また事業の一環として、射撃場に女性トイレを設置し、女性会員も参加しやすいよう環境整備も図る